

# 議会のうごき

## 所得税還付等の問題について 議会では、議会議派代表者 会議等に委ねる。

所得税還付等の問題について、これまで門脇市長は9月で調査局は調査を終結する発言をしている。しかしながら9月の協議会において、調査継続の発言を聞いて議会議派代表者では、何らかの対応が必要であるとの確認をする。ただしあくまでも市長の考えはそうであっても議会の権能は議決権が主であるため調査の継続を見守るしかできない。今後市長に対しては、12月にこたわらず可及的速やかに原因究明と市民への説明責任を果たすことと再発防止策を求める。議会の対応は今後代表者会議等に委ね、その開催時期は議長に一任をすることを決定する。

# 人事案件

○人権擁護委員に草薙氏  
任期満了に伴う人権擁護委員(9期目)の任命案を9月27日の本会議に於いて全会一致で同意した。

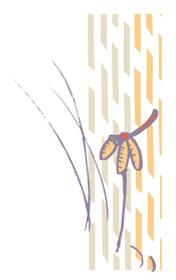
草薙 紀雄氏(66)  
住所 仙北市角館町4

(談) 夫婦、親子間の人権課題や隣人間の争い等に見られる心の歪みに対して相談されやすい委員活動を展開したい。

○固定資産評価審査委員に三氏  
進藤 敏夫氏(62)  
住所 仙北市角館町

元野 英雄氏(73)  
住所 仙北市田沢湖

本庄 護氏(69)  
住所 仙北市西木町



# 控室

## 仙北市として震災から学ぶもの

地震学者によれば、地震が明日来るのか千年後に来るのか全く分からないという。今出来ることは過去の地震を調査検証し、将来、来るかもしれない地震に備

えることがかもしれないという。この度の3・11地震は未曾有の地震といわれながら実は平安時代にも(869年)貞観(じょうがん)地震は、白岩付近に大きな被害があった。この陸羽地震の断層はさらに抱き返りから中生保内にかけての辺かも知れないという。一方、1423年、本荘に地震があったと理科年表に記述されていたが最近はまだ定かでないため抹消されている。

この断層が潜り込んでいて陸羽地震で被害の少なかつた抱き返りから中生保内にかけての辺かも知れないという。ある地震研究者によれば、もし次に地震が起るとすればこの断層が潜り込んでいて陸羽地震で被害の少なかつた抱き返りから中生保内にかけての辺かも知れないという。最近の研究でこれは本荘でなく西明寺付近だったという説が有力になってきた。前記の2つの他に特に注目したいことは駒ヶ岳の火山の温度が次第に上昇してきているのも気になる。だが、自然災害なのでいつ起こるかとか必ず起こるといふ保証もない。私達がこの仙北市でやることは、

①上記地域の家具を固定すること。  
②行政と市民が駒ヶ岳火山の温度上昇に関心を示し監視を怠らないこと。  
③地震や火山に対する研究者のアドバイスについて真摯に耳を傾けることではないだろうか。

(狐崎 記)

# 編集後記

一般質問初日、本会議場に入ると、はなやかな女性の声に思わず傍聴席を見ると多くの若い女性の方々が傍聴席前列に陣取っている。傍聴席前の最後列の議員は心なしか緊張して見える。一般質問が始まると傍聴席は静まり返り、議員の質問、市長の答弁一句、一句に熱心に耳を傾けている。

女性の方々は秋田市にある日本赤十字秋田看護大学の学生で、社会研修の一環として市議会の傍聴に訪れていた。

市議会が市発展について市当局との活発な議論をして、若い女性に限らず何時も市民の方々に傍聴に来ていただけるような市議会にしなければと思う。

(門脇 記)

